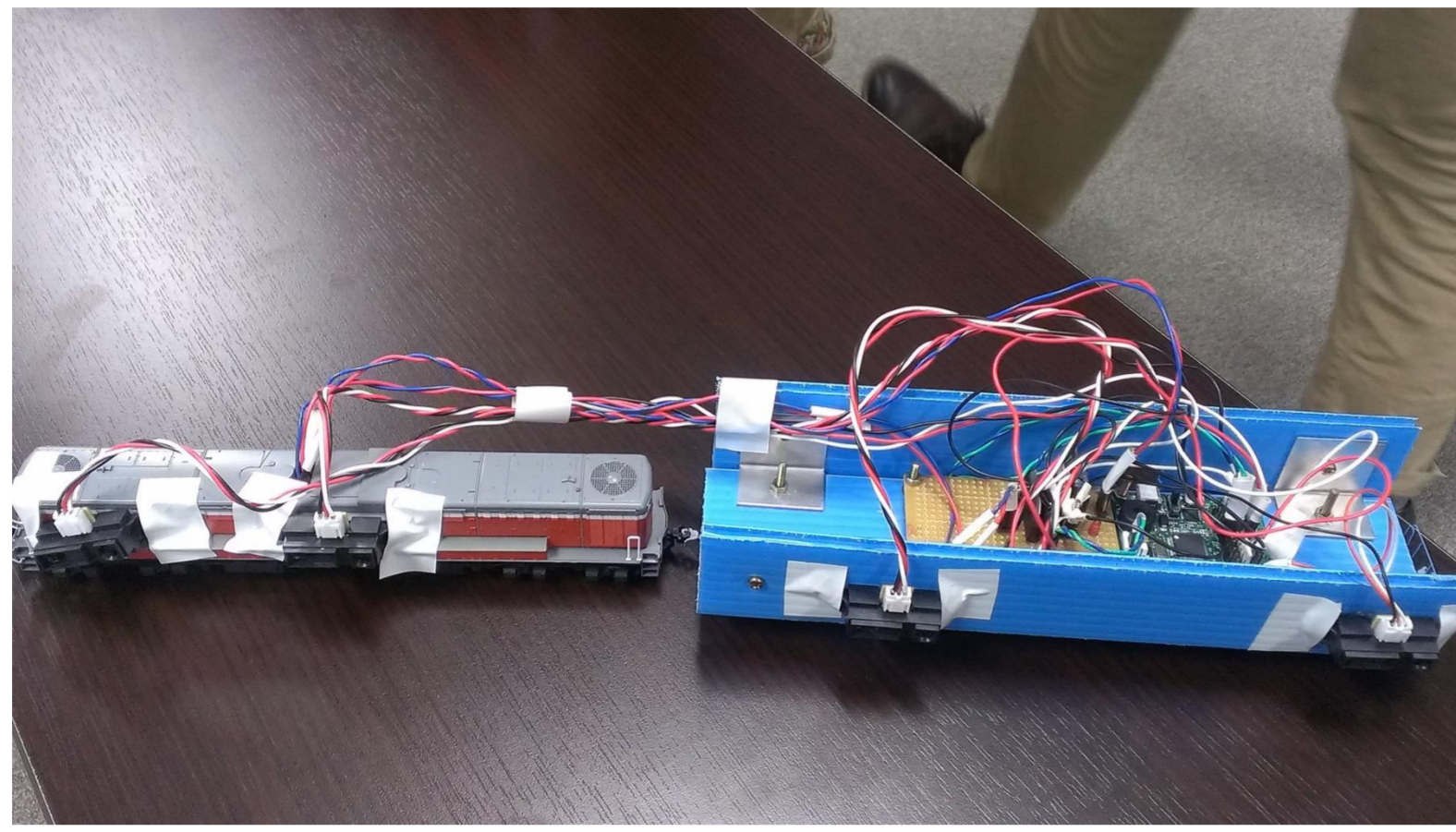
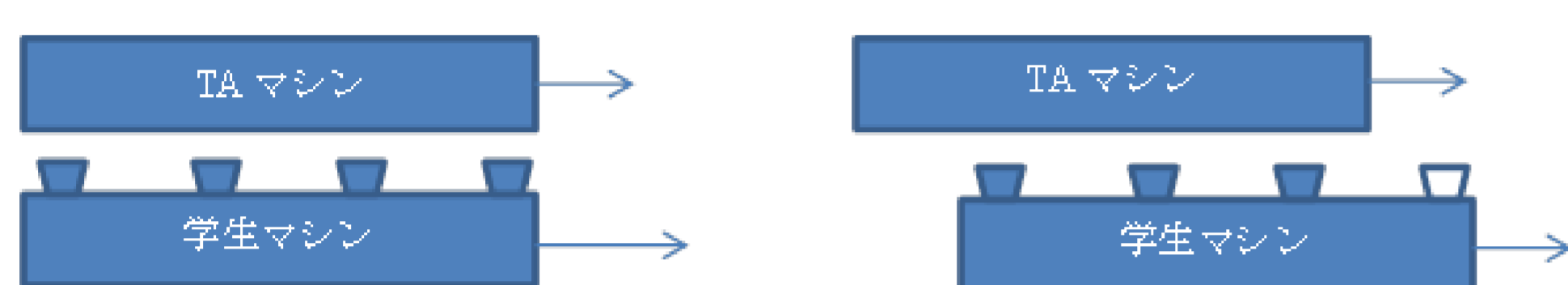


第一試技マシンについて



■工夫点について

- 4つのPSDの状態の遷移から速度を決める。



減速の場合

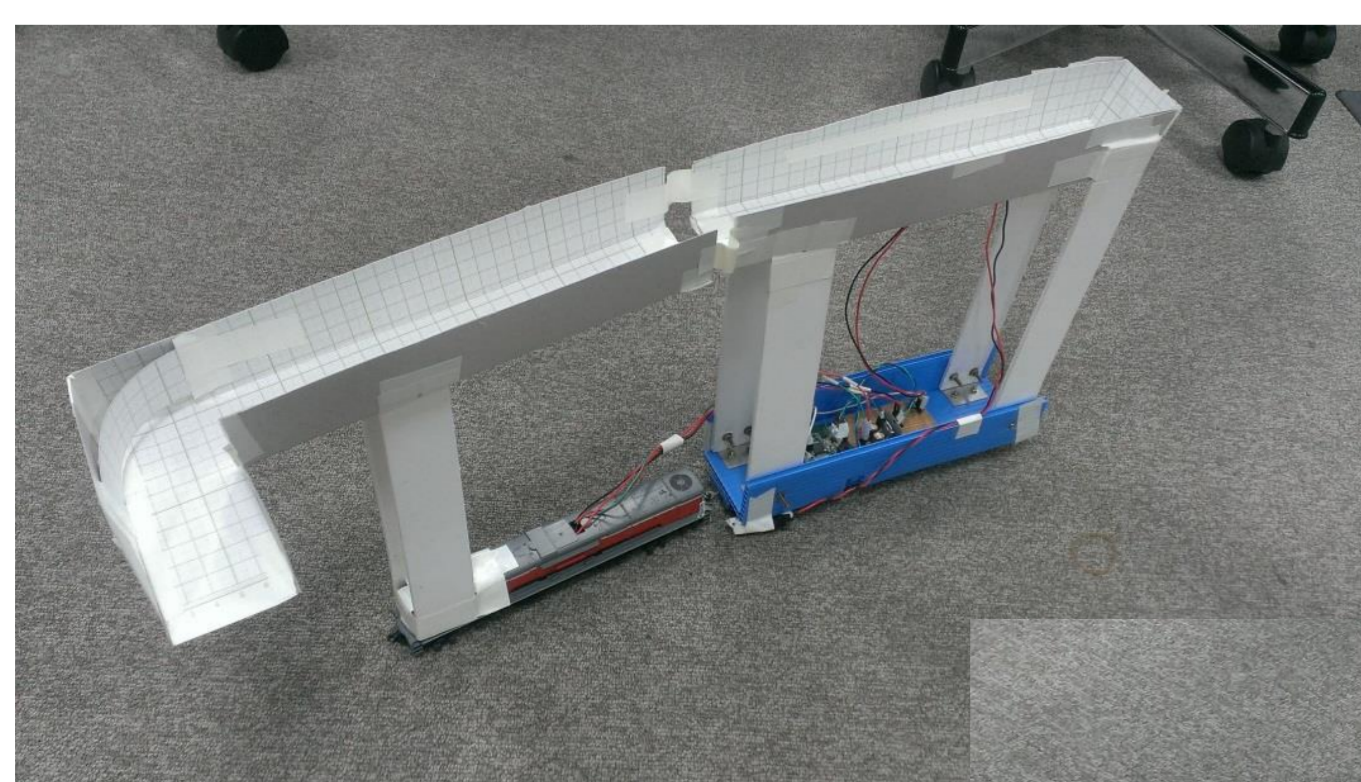
111の状態から1110の状態に変化すると学生のマシンの速度がちょっと速いということが分かる

- 自分たちのマシンをTA機の少し後ろ側で追従させるようにした
→TA機のセンサの位置が全体的に後ろ側にあるため

■反省点について

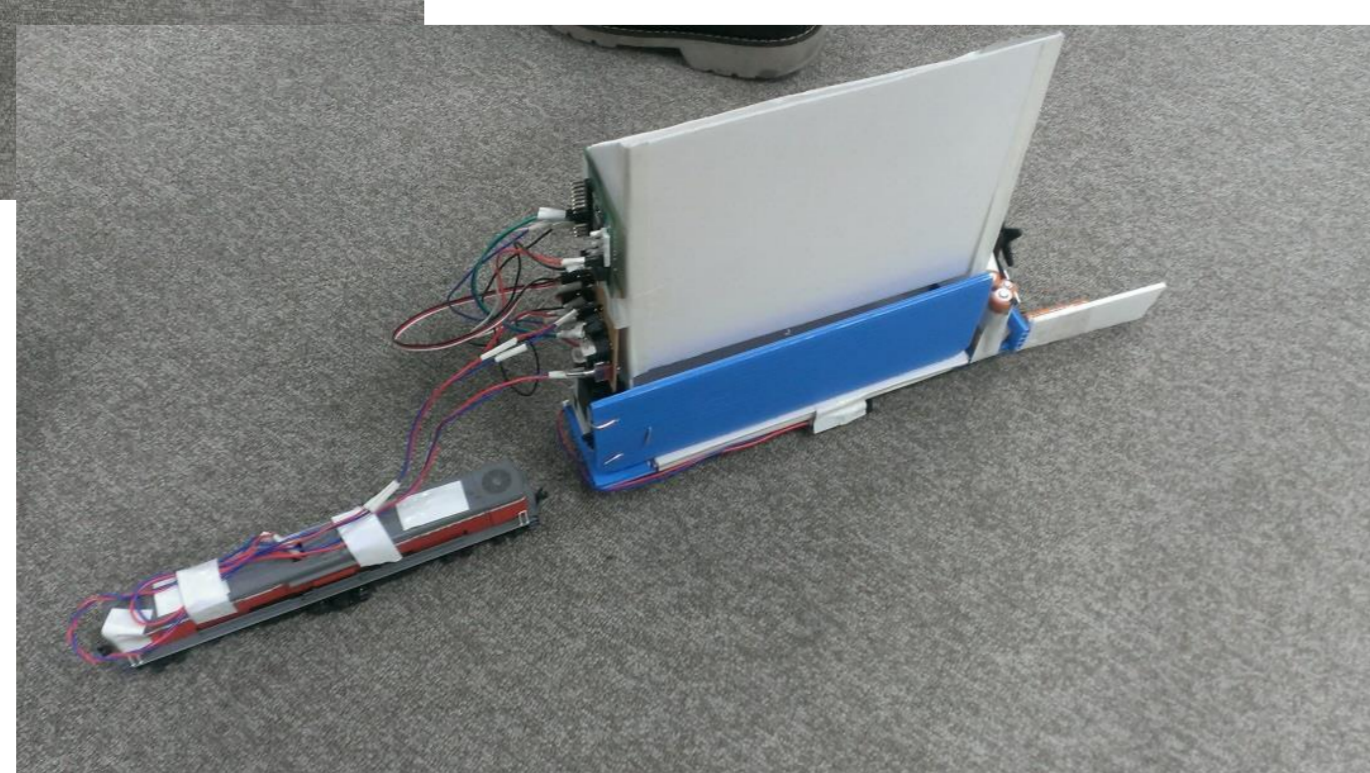
- TA機のマシンの少し後ろを追従させるといことが裏目に出て、TA機に振り切られ減点されてしまった。
- デバッグ中にセンサの誤作動によってマシンが思うように動かなかった。
→仮に誤作動した場合にどのように対処すべきか考えるべきであった。

第二試技マシンについて



←外側機

内側機→



■工夫点について

◆外側機

- 所定位置に停止するために、マグネットセンサに反応した後、逆方向に移動して停車するようにした。

- 上部にスロープを取り付け、スムーズに内側機にボールの受け渡しができるようにした。

◆内側機

- 外側機と同様に、マグネットセンサに反応した後逆方向に移動するようにした。

- 停止から少しずれてもボタンが押せるように、ボタンと接触する板を長くした。

- ボールを運ぶ際に転倒や脱線をしないう、電池などで重心の位置を調整した。

- ボールがつまらないように、内側機の中を調整した。

◆作戦について

- 外側機は供給機の下で待機させる
→外側機の誤動作のリスク減らす。
→開発をシンプルにした。

内側機でスイッチを押したり、ボールを運んだりする。

- 駅1、駅3、駅2、駅4の順番でボールを運ぶ。

- 駅1で確実に得点した後、時間切れにならないうちに得点の高い駅3にボールを運ぶ。

■反省点について

- マグネットセンサの誤作動や、反応後の逆方向への移動の速度調整が不十分で得点ができなかった。

- 第二試技マシンの製作が計画よりも遅れ、実際にコースを走らせてデバッグをする時間がなかった。